

新型コロナウイルス感染症に伴う

# 社会福祉施設の 対応事例集

社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会

社会福祉法人経営者委員会

社会福祉施設委員会

# 幼保連携型こども園 明照保育園 〈豊橋市〉

## 施設概要

法人名	社会福祉法人 明照保育園	定員	285名
施設名	幼保連携型こども園 明照保育園	職員数	64名
施設種別	幼保連携型認定こども園(保育部会)	他のサービス	放課後児童クラブ(第1~第4) 子ども食堂 ■ 無料学習支援
施設設立年	昭和28年5月		

## 幼保連携型こども園 明照保育園の取り組み

園長 中島 章裕

### 施設の特徴

豊橋市の西方に位置し、設立当時は農漁村であったところが、三河港の開港に伴う工業の進出、道路の整備により様相が一変された区域にあります。地域内の小中学校や県立高校、市内の保育者養成大学との交流も盛んに行われ、地元で育った多くの子どもが保護者や保育者となっています。

令和3年1月現在、0歳児19名、1歳児39名、2歳児53名、3歳児51名、4歳児52名、5歳児53名に、小学校6年生までの放課後児童クラブ生150名が在籍しています。

四季折々の行事を、子どもの成長を園・家庭・地域のみんで喜び合う機会として大切にを行い、その都度地域の方や未就園家庭に参加を呼びかけ、地域の中で親しみやすく、訪れやすい園の姿勢を目標としています。

### 予防等に関する具体的な取り組み

新型コロナウイルス感染対策においては、刻々と変化する地域の状況を見つつ、本園でも園長・主幹を中心に各部署のチーフで検討を重ねました。衛生面に関しては、従来からのインフルエンザやノロ・ロタウィルス等の感染症対策を徹底するとともに、更に新型コロナウイルスに対応すべくさまざまな専門的な情報を得て、日々試行錯誤しています。具体的には、各クラスおよび遊戯室等に設置されていた空気清浄機を最新型に切替え、玄関にサーモグラフィーや手指の消毒液を設置し、使い捨て型のおしぼり機を導入して乳児を中心におやつや給食時の口拭きに使用する等々、園内の設備を整えました。同時に職員による机やおもちゃの消毒の回数も増やし、換気も十分行って保育をしています。保育者等はもちろんのことですが、送迎時の保護者の方にもマスク着用の徹底を、今は当たり前になっていますが、当初は丁寧に呼びかけました。



4・5月の自粛保育期間中(登園児数は、半分から4分の1)には、子ども達に園生活を少しでも感じてもらうと毎日保育者等のビデオレターを配信し、手遊びやパネルシアター、体育遊びから栽培体験、クッキング、生活リズム、お手伝いを提案するなどの家庭保育の支援に努めました。

保護者の方からは、「あのビデオが自粛中の支えになった」と多くの声を頂きました。

6月からは、保育、児童クラブとともに子ども食堂も参加人数を絞って再開しました。

保育再開後に直面したのは、年間の保育行事をどうするかということでした。本園はもともと保護者・地域と共に子どもの成長をみんなで見つめることを願い、行事を大切に行ってきました。

保護者の中からも、不安を感じつつも、それでも毎年行っている行事をこの年の我が子にも経験させたいという声はかなり多く聞かれました。私達職員にとってもこの声は嬉しく、行事の意義を強く感じました。

職員でさまざまな視点から検討を重ね、4・5月でできなかった行事も含め、子どもの経験する1年間を密をできる限り避けて再構成しました。園児だけで行った夕涼み会、体調管理を十分に行つての年長児のお泊まり保育、保護者の数をしぼっての秋まつり、親子競技をなくした運動会など地域の催しが中止となったところに無理のないように編成していきました。祖父母の会だけは残念ながらできませんでした。

### コロナ対策をしてよかった点・見えてきたことや課題や注意点

良い点としては、長年の流れの中で行ってきた保育や行事を今一度見直す機会になったことです。一方、全職員がマスクを着用するようになって、園児たちへの影響を心配しています。特に乳児は、保育者の表情や口元から共感や言葉の発達を促していきます。フェイスシールドやマウスガードもいろいろと試してみましたが、曇ってしまったり効果が疑問なため、未だマスクを着用している保育者が多いのが実情です。「密」を避けるべく保育を行っていますが、実際は、子どもたちに「大きな声を出さないように」とか、「友達と距離を置いて遊ぶように」と言うことは、この乳幼児期には無理な話なので、形だけの感染対策になってしまっている部分もあります。乳幼児期は、スキンシップや子ども同士のじゃれ合いが非常に大切な時期です。いわば「密と接触」によって子どもたちは成長していきます。登園自粛中から復帰した子どもたちを見ると、全体的な体力の低下とともに発達の遅れがある子やわがままになっている子も見られました。この登園自粛期間が終わって分かったことは、子どもたちにとっては、家庭の外で友達とふれ合ったり行事を楽しみにしながらみんなで保育生活をするのがいかに大切なものかということでした。感染予防と子どもたちの発達を考えた場合、矛盾をはらんだ保育を行わなければならない点も出てきます。初めて出会う新型コロナなので、情報も日々更新され、なかなか正解も分からない中で、これからも子どもたちの成長と安全を考えながらその時の最善を試行錯誤していきたいと思っています。

